



ほうなん

令和6年度 11月号

令和6年 10月31日
杉並区立方南小学校
03(3322)7661

冷蔵庫にあるものでササっと何かつくる

～深い学びの実現に向けて、かかわりやつながりに気づくことを大切にする～

校長 吉岡 光弘

変わりやすい秋の天気にも翻弄される中でしたが、無事にスポーツフェスティバルを開催することができて本当によかったです。様々なご準備、ご協力を心から感謝申し上げます。

さて、スポーツの秋から食慾の秋に話題を移します。昔も今も「冷蔵庫にあるもので、ササっと何か作れる」というのは、料理上手の条件の一つではないでしょうか。しかし、この作業、レシピ通りに料理をつくるということと比べると、かなり高度で、料理の知識と経験、そしてセンス等がないとできないと言われていています。その思考過程を整理すると、まずは、「夕飯を作る」という大きな目標があり、それを達成するためにメニューを考えるとところから始まります。そこで、冷蔵庫に何があるかを考え、〇〇と△△、それと◇◇があるので、☆☆をつくらうと決めて、作業を進めます。料理をする方ならわかると思いますが、献立まで決まれば、ほぼ作業は終わったと言っても過言ではありません。後は、レシピに従って淡々と作業を進めていくだけです。この作業において、仕入れたものを、冷蔵庫内にどう整理しておくかが、大切な要素の一つだと言えます。

この冷蔵庫にあるもので料理を作る過程が、現在本校が目指している児童が主体的に取り組む問題解決型の学習の過程と似ているのではないかと感じています。与えられた課題を解決するために、既習事項を生かして解決する。私は子供たちに、学習内容の横のかかわりや縦のつながりに気づき、自分がこれまで獲得してきた知識や技術を存分に生かして、解決してほしいと伝えています。教師も、このような児童の気づきを大切に、より深い学びにつなげていきたいと考え、授業の導入やカリキュラム等を工夫して、日々授業改善に取り組んでいます。

さらに「冷蔵庫にあるので、ササっと何か作る」の思考の過程は、総合的な学習の時間の思考過程に近いのではないかと考えています。例えば「地域」「環境」「福祉」など大きな目標設定があり、それに自分の知識、経験等をフル稼働して、自分の課題を設定し、課題解決を図っていく。実は、この課題づくりというのが、一番大切で難しい過程です。ここを疎かにして、手を抜いたり、あわててしまったりすると後の活動で、行き詰まってしまったり、飽きてしまったりしてしまい、かえって大変になってしまうことがあります。また、子供たちは、この自分が設定した課題の解決にも、自分の知識や経験を生かしていきます。この場合も料理の時と同じように、子供たちがそれまで、どれくらい課題を解決するまでの道のりを意識して、知識や技術の獲得（インプット）をしてきたかも大切な要素になってきます。このようにして、子供たちは、小学校で様々な知識・技能、思考力、学び方を身に付け、これから進学する中学や高校、大学等で、それを生かして、さらに学びを深める正のスパイラルの中で成長していきます。

冷蔵庫にある残り物を、料理のアプリに入力すると、数えきれない程のレシピを紹介してくれます。ですから、人の知識や経験等はいらないのではないかとこの考えも浮かんできます。昨年からの話題になっている ChatGPT (AI) の活用でも、同じような議論がされていますが、私はやはり人間の知識と経験に基づいた思考力は最後まで必要だと思っています。アプリで紹介されたたくさんのレシピの中から、その日の季節や雰囲気合った、家族が喜びそうな料理を選ぶことができるのは、現時点はまだ、人間だけなんだろうと考えています。